

PLAN NEWS

THANKS
40th
ANNIV

日本での創立40周年スペシャル対談
「誰ひとり取り残さない」
世界にむけて
私たちにできること

支援者インタビュー
わんこが繫いだ絆
柴犬かぼすちゃん

プラン・スポンサーシップ
遠い国からのサポートが子どもの
自信につながる(エクアドル)

「誰ひとり取り残さない」世界にむけて

私たちにできること

THANKS
40th
ANNIV

日本での40年の歩み

「民間の平和外交」で日本から世界に貢献
「経済成長を遂げた日本が、国際社会に貢献するべき時代が来た」と考えた有志たちが、国際本部の働きかけを受けて事務局を開設しました。

国際NGOプラン・インターナショナルは、2023年5月に日本での創立40周年を迎えます。1983年、日本において、貧困に苦しむ途上国の子どもたちの支援に端を発した活動は、日本国内で生きづらさを抱えた女の子への支援にまで範囲を広げています。現在、日本だけで約6万人の支援者の皆さまに支えられる国際NGOの一員へと大きく成長しました。理事長の池上清子と、2022年9月に理事に就任した村木厚子が、プランのこれまでと未来を語ります。

〈左〉いけがみきよこ 国連機関とNGOで経験を積み、HIVとエイズ、性と生殖に関する健康と権利、国勢調査に基づく政策立案などを含む人口と開発、ジェンダーに関する政策提言に従事。2016年より現職。長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科客員教授、日本赤十字社理事、公益財団法人アジア人口開発協会専務理事
〈右〉むらきあつこ 労働省(現・厚生労働省)入省。女性や障害者政策などを担当。2009年、郵便不正事件で逮捕。2010年、無罪が確定し、復職。2013年から厚生労働事務次官。2015年退官。困難を抱える若い女性を支える「若草プロジェクト」代表呼びかけ人。累犯障害者を支援する「共生社会を創る愛の基金」顧問。津田塾大学客員教授



撮影：金井塚太郎

パートナーシップで 少しづつ助け合う ことで明るい未来に

池上理事長(以下、池上) 日本のプラン・インターナショナルが40周年を迎える節目に、村木さんを理事にお迎えできたのは大変うれしいことです。村木さんは理事になられる前から、約30年間、4人のチャイルドのスポンサーとしてプランを支えてくださいました。支援者としてプランにどんな印象をお持ちでしたか？

村木理事(以下、村木)「寄付をすれば、この村で生活するこの子の未来が明るくなるんだ」と、支援の成果を具体的に思い描くことができるのが、当時からインパクトがありましたね。長年お付き合いさせていただけでなく、世界75カ国以上で活動

する国際NGOだというのはものすごい強みだと改めて感じています。世界規模のネットワークと豊富な知見、多様な視点は日本での課題解決にも欠かせないと思うんです。

池上 ありがとうございます。プランに限らずNGOなどの市民団体の存在感が、日本でもようやく増してきたと感じています。40年前に私が日本のNGOで働いていたときは、アメリカと違って、政府や役所にまともに取り合ってもらえないということもありました。

村木 長らく役所で働いていた身として、それは反省点です。SDGsの目標のなかで、日本が特に苦手なのが、目標5の「ジェンダー平等を実現しよう」と、17の「パートナーシップで目標を現実しよう」だと感じています。行政機関と企業、市民団体など、多種多様なプレイヤーが団結して成し遂げられることが多いと思うので、もっとパートナーシップに力を入れていきたいですね。

池上 女の子支援も、さまざまなプレイヤーが入ってくることでより活性化し、目標達成にむかって加速で

きる。SDGsが掲げる目標「誰ひとり取り残さない」に近づいていくと思います。

村木 その目標を初めて耳にしたとき、本当にそんなことがかなえられるの？ って実は懐疑的だったんです。でも、島根県の生活協同組合が行う有償システム「おたがいさま」のことを知って考えが変わりました。長期入院の付き添いや、子どもの保育、障害のある人の外出支援など、さまざまな課題が持ち込まれるのですが、皆で助け合っているように感じました。パートナーシップで少しづつ助け合えば、「誰ひとり取り残さない」ことは可能なのだと希望を感じました。

生きづらさを抱える 日本の若年女性への サポートを開始

池上 プランは、2018年に、日本でのジェンダー課題に取り組むための準備チームを立ち上げました。調査をすすめるなかで、国内でも若年女性を取り残されていることが見えてきました。そこで、女の子のた

「どんな人でもあるときは支え、支えられる。社会の問題は自分と地続きのところにあると考えた方がいいと思います」村木さん

- 1983年 「日本フォスター・プラン協会」創立
- 1984年 初の新聞広告で支援募集開始
- 1985年 機関誌『フォスター・プランニュース』(現『プラン・ニュース』)発行
- 1986年 外務省から財団法人として認可を受ける
- 1988年 外務省から特定公益増進法人として認定される支援者の会結成
- 1998年 「プラン・マンスリー・サポーター」(現「グローバル・プロジェクト」)募集開始
- 2004年 スマトラ島沖地震の支援に、日本のスタッフを派遣
- 2006年 団体名を「フォスター・プラン」から「プラン・ジャパン」へ

女の子の力を見出し、 後押しすることで、 子どもたち全体を応援する

「子どもたちのなかでも特に後回しにされがちな女の子を支援しなければ、子どもたちの貧困や不平等はなくなるならない」と、女の子への支援に焦点を当てる方針を打ち出します。

- 2009年 女の子への支援の重要性について、日本国内での発信開始
- 2011年 内閣府から公益財団法人として認可を受ける
- 2012年 東日本大震災で、初の国内での支援活動を開始
- 2014年 「Because I am a Girl」キャンペーン開始
- 「Girls・マンスリー」(現「Girls・プロジェクト」)を開始
- プラン・ユースグループが発足



創立40周年記念企画にご参加ください!

全国の支援者の皆さまに、より深くプランのことを知り、支援の成果や楽しさを実感いただきたいと願ってさまざまな企画をご用意しました。ご都合にあわせてご参加ください。

THANKS
40th
ANNIV

EVENT オンラインでのご参加募集中!

2023年4月29日(土・祝) 支援者の方 限定イベント 「40年の歩み～成果と未来を分かち合おう」

日時 2023年4月29日(土・祝) 11:00～16:15(予定)
場所 【オンライン】Zoom(出入り自由です。ご都合の良い時間にご参加ください)

- 主な内容 第1部 ●プラン・ヒストリー～誕生秘話から日本での40年～
●Hello from Cambodia! (カンボジアから生中継予定)
●やくみつるさんによるトーク
- 第2部 ●ネパールの元チャイルドが語る「スポンサーへの思い」
●ラオスの駐在スタッフからの報告
●スポンサーが語る「チャイルドと私」
●増田明美さんによるトーク

申込は
こちらから



申込期限 2023年4月28日(金) 17:00

※内容やタイトルは一部変更になる可能性があります ※定員になり次第、締め切らせていただきます



撮影: 鬼室黎

スポンサーである、やくみつるさんと増田明美さんが登壇



BOOK

2023年5月発刊予定
『おしえてジェンダー!
「女の子だから」のない世界へ』
(合同出版)

ジェンダーの現在と未来について解説した書籍が、40周年を記念して発刊されます。中・高校生対象ですが、大人があらためてジェンダーを理解するためにも役立つ一冊です。

■執筆した長島職員のコメント
「女の子だから」。そんな呪いの言葉にとらわれてしまった、すべての女の子にむけて書きました。「ジェンダー」を理由に機会を奪われることはあってはならない。これは「私たち全員」の未来のための大切なメッセージです。



EVENT

2023年6月30日(金)
朗読劇イベント「100年前の
女性は何を思っていた?(仮題)」

演劇を通じてジェンダー平等を推し進めるミモザプロジェクトとの協働で、朗読劇イベントを実施します。続く対談には、理事長の池上清子が登壇します。

日時: 2023年6月30日(金) 19:00～20:40(予定) / 場所: としま区民センター・小ホール(東京都豊島区池袋) / 内容: 朗読劇、対談、来場者グループディスカッション / 申込: 後日、プランのウェブサイトとメールマガジンでお知らせします / 定員: 80名



SNS

～2023年9月末まで(予定)
支援者交流キャンペーン
「#私とプランの物語」

プランとの出会いや歴史、支援をはじめたきっかけや支援を通して感じたこと、変わったこと。そんな「あなただけのプランとの物語」を、「#私とプランの物語」のハッシュタグをつけてTwitterでシェアしませんか。これまでに寄せいただいたコメントは号のプラン・ニュース最終ページでご紹介しています。

詳細は40周年記念サイトをご覧ください



7月以降も企画が続きます。詳細は40周年記念サイト、メールマガジン、プラン・ニュースなどでお知らせします



「先駆的な働きをして、世界を根本的に変革していく。そのためにNGOが貢献できることはたくさんあると思います」池上さん

池上「ほっこりできる居場所を作りたい」など、今回の支援にはプラン・ユースグループのアイデアが多く生かされています。

めの居場所「わたカフェ」や全国からアクセスできるチャット相談を提供する事業を開始しています。帰る家はあるけれど戻りたくない、将来のことが不安、という女の子の声を非常に多い。夜中まで街をふらつく子もいるし、死にたいと思いつつ必死に日常生活を送っている子も多いことがわかってきました。

村木 私は、生きづらさを抱える少女・若い女性を支援する「若草プロジェクト」に携わっています。この活動を通して感じるのは、問題を言語化し、誰かに打ち明けるのは勇気が必要でハードルが高く、最終的に自己責任だと自分を追い込んでしまう女性も多いこと。プランの活動は、居場所を作ること、相談の手前の段階のフォローもしているのが素晴らしいですね。

料危機など喫緊の課題にも、ジェンダーの視点を取り入れながら取り組んでいます。SDGsは国連で採択された文書「Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development (我々の世界を変革する…持続可能な開発のための2030アジェンダ)」の一部です。私はこの「Transforming to our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development (我々の世界を変革する…持続可能な開発のための2030アジェンダ)」の

先駆的な働きをして、表面的な変化ではなく根本的に変革していく。村木 そうですね。そして、変革をする際に日本はスピードも求められていると思います。むかっている方向は誤っていないし、みんな真面目に努力しているのに、どうもスピード感がない。要因のひとつは、企業や政治のリーダー層が同質性を重視していることにあると考えます。リーダー層に女性や若者がどんどん加われば、化学反応が起こりもっと早く前に進む。社会の変革のスピードを上げるといっても、プランが続いている女の子・女性支援は大切ですね。

村木 私は、生きづらさを抱える少女・若い女性を支援する「若草プロジェクト」に携わっています。この活動を通して感じるのは、問題を言語化し、誰かに打ち明けるのは勇気が必要でハードルが高く、最終的に自己責任だと自分を追い込んでしまう女性も多いこと。プランの活動は、居場所を作ること、相談の手前の段階のフォローもしているのが素晴らしいですね。

2023年

日本国内で「女の子のための居場所・相談」プロジェクトを本格稼働

2022年

ウクライナ緊急支援開始。日本のスタッフをルーマニアに派遣

2020年

コロナ禍を受け、海外・日本での緊急支援を実施

2016年

熊本地震をきっかけに国内での緊急支援が活動の柱のひとつに

震災発生直後に現地入りした職員



わんこが繋いだ絆



かぼすママこと佐藤敦子さんとかぼすちゃん(画像: 本人提供)

柴犬かぼすちゃん

支援者インタビュー

佐藤敦子さん

ブログに載せた愛犬・かぼすちゃんの一枚の画像が、知らないうちに世界中で人気となった佐藤さん。悩んだ末、チャリティオークションに出品した結果、そこからベトナムの子どもたちとの絆が生まれることになりました。

保護動物のために始めた ブログが思わぬ展開に

「かぼすちゃんとの出会いについて教えてください。」

佐藤敦子さん(以下、佐藤) 前の飼い犬との悲しい別れがあって、しば

らく犬を飼う気になれませんでした。でも「そろそろまた」と思い始めた頃、悪質なブリーダーの元に生まれ、殺処分前に奇跡的に助け出された柴犬の里親募集を見つけました。それがかぼす(かぼちゃん)です。彼女を家族に迎えた翌年、ブログを

始めました。かぼちゃんの生い立ちに衝撃を受け、保護動物のことを少しでも多くの人に知ってもらいたいと思ったからです。ものすごく真剣でしたので、たくさんの写真を撮ってブログにアップしていました。そうしたらいつの間にか、その中の一

枚がネット上で、世界中に広まっていたんです。ウィキペディアの項目や仮想通貨のシンボルにもなっていて…本当に驚きました。海外から取材依頼やメールもたくさん来るようになったとか。佐藤 アメリカのニュースサイトな

どに取り上げていただいたのはよかったのですが、「一緒に NFT で儲けませんか?」みたいな英文メールが次々に来て、正直「もう、いい加減にして!」という気持ちになっていました。それで、アメリカの金融業界の第一線で活躍している友人に相談したんです。「そもそも NFT って何?」って(笑)。彼女は丁寧に説明してくれたうえで「せっかくだから自分で NFT オークションをやって良いと思う団体に寄付してみるのどう?」と言って力になってくれました。

「そして2021年、チャリティ目的の NFT オークションに出品することになったんですね?」

佐藤 まずは寄付先の団体候補を告知しなければと思って、ネットでいろいろと調べました。公式サイトはもちろん、関連記事もたくさん読んで、7つほどピックアップしました。——プランもその中に?」

佐藤 はい。一番の判断基準は、世界の子どもたちのために使っていただけのこと、そして何より信頼できることでした。実はプランのことは、そのときはじめて知りました。でも、担当の方からオーダーメイド・プロジェクトのことをうかがってとても感銘を受け、ご提案いただいたべ



(右) 小学校でのライフスキルトレーニングに参加するベトナムの子どもたち/ (左) 佐藤さんのお名前とかぼすちゃんの画像もはいた記念プレートが設置される予定

「世界中が「ありがとう」でいっぱいになってほしい」

「ご支援いただいたプロジェクトは今年8月に完了予定で、昨年末には中間報告書もご覧いただきました。どんな感想をおもちでしょうか。」

佐藤 地元の方たちが参加して、自分たちの力で自分たちの村の学校を作るといふアプローチが素敵ですね。報告書の写真を拝見すると、現地のみなさんが本当に喜んでくださっている様子が伝わってきました。完成した校舎に設置するプレートには、かぼちゃんの写真を入れていただくようお願いしました。すべて、

かぼちゃんの功績ですから!

「今回の支援を通じてお感じになったことがあれば教えてください。」

佐藤 「ありがとう」って言うときになれど聞いて、自分の子どもたちにも以前から1日に何度でも「ありがとう」を伝えようと言っています。でも、今回の支援を通じて「ありがとう」って言うことがもって幸せだなって実感しました。小さな支援でも、世界の誰かが「ありがとう」って思ってくれていると想像するだけで私は元気がもらえます。支援は「誰かのため」だけでなく「自分のため」ということを今回教えていただきました。世界中が「ありがとう」でいっぱいになったらいいですね。

Column

かぼすママが支援した オーダーメイド・ プロジェクトとは?

一つのプロジェクトを個人や企業で「まるごと支援」、または複数の方の寄付を合わせてプロジェクト実施する方法です。

ただいま募集中! ベトナムにおける 小学校・幼稚園整備プロジェクト

- 実施場所
ベトナム北西部ライチャウ省
 - プロジェクト規模
1,200万円
 - 支援体制
複数人による支援
 - 実施期間
2023年7月~2024年6月(予定)
 - 主な内容
図書室の設置、図書や備品の支給、トイレの設置、給水設備の設置、ジェンダー平等や衛生の意識啓発活動
- ※ 募集期間~2023年5月31日

お問い合わせ先: hello@plan-international.jp

*1 NFT: Non-Fungible Token (非代替性トークン)。偽造不可なデジタルデータのこと

illustration by Noriyuki Goto



エクアドル 遠い国からのサポートが子どもの 自信につながる

プラン・スポンサーシップは、子どもや女の子を含めた地域の住民たちがともに話し合い、問題を洗い出し、解決することで地域全体の底上げを図る総合的な“面”の支援です。最終的には地域の人々の力だけで問題を解決できるように、活動に取り組んでいます。

メ リッサの両親は、プランが支援する生計向上プロジェクトに参加し、収入が増えたので、メリッサを小学校に通わせることができました。また、育児にあまり関心なかった父親は、親業講習会に参加して子どもに愛情をもつて接し、常に子どもの支えとなることの大切さを学びました。メリッサも、プランが実施するさまざまな活動に参加しました。例えばゲームや演劇を通じて、ジェンダーに関係なく、互いに協力しあうことや尊重することの大切さを学びました。



エ クアドルに住む15歳のメリッサは、3歳の頃、プラン・スポンサーシップのチャイルドに登録されました。父親は農業で生計をたてていましたが、生活は苦しく、地域を訪問したプラン・インターナショナルのコミュニティ・ボランティアから、チャイルドに登録することを勧められたのです。数カ月後、メリッサに日本人のスポンサーとの交流が決まったと連絡がありました。当時まだ小さかったメリッサは自分で手紙を書



※コミュニティ・ボランティアは、プランの活動に賛同し、トレーニングを受けてプランの活動をともに支えてくださる地域の人々のこと

けないので、代わりに手形をスポンサーに送るなどして、成長を伝えました。

8 歳になったメリッサは、畑や動物の絵を描いてスポンサーに送りました。すると、日本の風景やお正月の写真が送られてきて、とてもワクワクしました。メリッサの住む地域は山間にあり、道路も整備されていません。郵便サービスもないため、コミュニティ・ボランティアがチャイルドの自宅を1軒1軒訪ね、何時間もかけてスポンサーからのお手紙を届けています。メリッサは手紙を受け取るたびに、とてもうれしい気持ちになりました。

定 期的にスポンサーに送られる「一年の歩み」では、コミュニティ・ボランティアが撮影したチャイルドと家族の写真とともに、プランが実施した活動の進捗や成果を知ることができます。メリッサは、プランとともに、遠い国に暮らすスポンサーも自分と家族のことを気にかけてくれるのがうれしいと話します。「自分の成長を世界のどこかで気にしてくれる人がいるなんて、とても幸せです。世界中のスポンサーの皆さんにありがとうと言いたいです」

メ リッサはいつかスポンサーに会いたいと思っていますが、12歳のときにその夢がかないます。プランのコミュニティ訪問の制度を利用して、メリッサの住む地域を訪問してくれたのです。2人は、近頃のコミュニケーションで、9年間の交流を振り返り、温かい気持ちになりました。



プラン・スポンサーシップを通じたご支援をよろしくお願いたします

詳細はウェブサイトをご覧ください



チャイルドとの交流を通じて、成長を見守ってください

解説：リレーション開発部 レター担当 柰屋美絵



現在、プランの活動する国々には約135万人のチャイルドがいます。日本のスポンサーは、約3万5,000人で年間5万通以上のお手紙の交流があります。このお話にあるように、お届けに時間がかかり、ご心配をおかけすることもあります。スポンサーのお手紙をチャイルドに届けるということは、単なる配達でなく、チャ

イルドの生活や健康状態を確認し、チャイルドを励ます機会にもなっています。お手紙の交流にはそのような効果もあることを知っていただき、見守っていただければ幸いです。少しでも実りある交流をお手伝いできるよう、私たちが日々努力を続けたいと思います。

子どもたちの
命と未来を守る

壊滅的な飢餓に瀕している 子ども・女の子たちを守るために

※飢餓の危機が深刻なアフリカ7カ国。ケニア、エチオピア、ソマリア、南スーダン、マリ、ブルキナファソ、ニジェール

世界で8億人以上の人々が深刻な食料不足に直面しています。プラン・インターナショナルは2022年7月から、その影響が甚大なアフリカ7カ国への緊急支援の寄付募集を行いました。多くのご支援をありがとうございました。プランが実施した支援活動の一部をご報告します。

学校給食を含む 食料支援

プランは、国連世界食糧計画(WFP)などと協力し、食料支援を実施しています。例えば南スーダンでは約2万8000人に穀物や豆類、食用油などが入った食料キットを支給しました。



児童の家族に未就学児がいる場合、弟や妹にも給食を提供(ケニア)

また、子どもたちが栄養価の



プランが運営する施設で、母子栄養のカウンセリングを受ける親子(南スーダン)

高い食事をとることができる学校給食は、教育を続けるうえでもとても重要です。ケニアでは2万2595人の子どもたちに給食を提供しました。

子どもたちの栄養改善

南スーダンでは、国連機関と協力し、60万人近い子どもたちの栄養診断を行い、3万人の子どもたちを入院・治療につなげました。また、12万人以上の母親たちに母子栄養についてのカウンセリングなどを提供しました。

生計向上支援(農業支援)

食料危機に直面している人々の80%は農業で生計を立てています。エチオピアでは40万人以上に、農業用の種子や飼料



仮設キャンプで給水車の到着を待つ女の子(ソマリア)

の配布のほか、獣医による診療、家畜管理のトレーニングなどを実施しました。

安全な水へのアクセス改善

干ばつが続く地域で水を求めて引越す子どもたちは、中途退学や不衛生な環境下での生活を強いられます。ソマリアでは、給水車による水の供給や貯水タンクの設置、石けんやバケツなど衛生キットの配布を行い、約4万人が安全な水を手入れし、適切な衛生環境を保てるよう支援しました。

現金給付および クーポンの支給

食料危機下における現金給付やクーポンの支給は、ニーズに



干ばつで家畜を失い、支給されたクーポンで食料を買う女性(エチオピア)

子どもの保護・ジェンダー に基づく暴力の予防

食料危機は子どもたちに最も影響を及ぼします。例えばソマリアでは、干ばつの影響で親から子どもへの身体的虐待が41%増え、エチオピアでは特に食料が不足している地域において児童婚が51%増えたと報告されています。ニジェールでは、児童労働や児童婚などの問題について宗教指導者や行政リーダーなどと、対応を協議しています。

Vol.15

プランを支える企業の声

株式会社日能研

世界の課題を知り、考える。 持続可能な学びを子どもたちに



木の温もりが感じられる教室。首都圏の教室を中心に順次「教室の木質化」を進めています

SDGsが生まれた背景も きちんと知ってほしい

日能研は、私学進学を専門とした中学受験塾です。1953年の創設以来、世界の課題を学習に取り入れてきました。また、未知なことと出会うたびに活かすことができる「持続可能な学び」を大切にしています。

2017年には、冊子『SDGs(世界を変えるための17の目標)2030年までのゴール』を作成しました。生徒には、17のゴールをただ実行するだけではなく、SDGsが生まれた背景を考えてほしい。このような思いを込めて、SDGs誕生の流れも分かりやすく説明して

います。子どもたちの身近な「環境」からアプローチするため、2012年より「教室の木質化」も進めています。

チャイルドの目の輝きや 利他の心に胸を打たれて

日能研での学びを通じて、子どもたちには世界の課題にもっと関心をもってほしいと、国際機関などへ寄付をしています。その一環として、1993年より、プラン・スポンサーシップを通じた支援をしており、現在も30人近くのチャイルドと交流しています。支援を通じて印象的なのは、チャイルドたちの目がキラキラと眩しいほどに輝いていること。そして、「将来は自分が住んでいる村に貢献したい」と、利他の心が育まれていることに胸を打たれています。

ここ数年は、ブータン出身のスタッフ、ソナム・ペルモさんが手紙での交流を担当しています。異国から来て滞在している視点から、日本の山や桜についてなど、チャイルドが知りたいことを上手く伝えることができているのか、手紙のやりとりがより

活発になっているようです。

プランの活動を伝えて 子どもたちの将来の教材に

受験を終えた子どもたちの祝賀会では、プランへの寄付として使うと伝え、保護者に任意で謝恩費を募金くださるよう呼びかけています。集まった額に、日能研が同額を添えて寄付します。プランの活動が単に金銭的な支援だけを行うのではなく、



日能研代表の高木幹夫さん(右)とチャイルドとの手紙のやりとりを担当するソナム・ペルモさん(左)

コミュニティ支援として、小学校づくりや自立を支える識字教育のサポートをしていることもきちんと伝えていきます。このような情報は、子どもたちにとってよい教材になると思うからです。自分のアクションが、誰とつながり世界を変えていくのか。より良い未来をつくるうえで自分の役割に、目が向くようになるのではないのでしょうか。

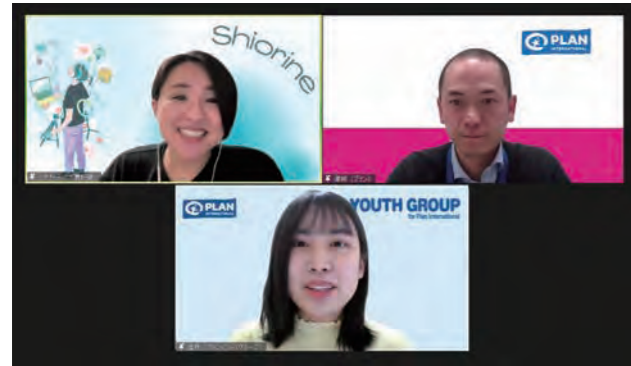
40周年を迎えたプランを、今後も応援したいです。時代の変化や地域のニーズに合わせた活動がますます求められると思うので、途上国や日本の子ども支援など、今後もさまざまな活動を期待しています。

イベント

国際女性デーに開催 「シオリーヌさんと考える『性教育』」

プラン・インターナショナルは、国際女性デーの2023年3月8日に、オンラインイベント「シオリーヌさんと考える『性教育』～互いを尊重しあえる人間関係を築くに

の実態調査」について報告がありました。続いて、助産師/性教育 YouTuberのシオリーヌさんが、若者たちの声を紹介しながら包括的性教育の重要性について説明。



オンラインで行われたイベント

覚えてほしい用語として、SRHR(性と生殖に関する健康と権利)を取りあげ、「あなたの身体や人生はあなただけのもので、それらについて決める権利はあなた自身にしかない」と語りかけました。

は?~」を開催しました。

後半は対談形式で進行し、参加者からの「子どもに分かりやすく説明するにはどうしたらよいか」という質問に対し、シオリーヌさんは「十分な性教育を受ける機会がなかった大人自身が、性教育を

学ぶこと。本や動画などから、どんな言葉で伝えるべきか理解できるとか」と回答されました。

また、逸見さんが「プラン・ユースグループとして包括的性教育を学校で学べるよう文部科学省に提言しているが、実現にむけたハードルは高い」と発言すると、シオリーヌさんも、社会が変わっていくにはまだまだ時間がかかるとうえで、学校での外部講師の活用など、日常的に性教育に触れられる環境づくりにむけて、大人ができることからアクションを起こしていくべきと話しました。

当日は、教育や福祉の現場に関わる大人から中高生など約300名が参加し、多くの質問が寄せられました。「もっと性教育を学びたい」、「子どもたちが気軽に学べる環境にしていきたい」と感じている人が多いことがうかがえました。

日本の女の子たちが、将来にむけて 一歩踏み出すための力になりたい

プラン・インターナショナルは今年1月、国内支援事業を本格的にスタートさせました。この事業に従事する橋本職員は、臨床心理士の資格をもつ専門家。社会のなかで生きづらさを感じている女の子たちのサポートをしています。

プランで働き始める前は、病院の精神科のソーシャルワーカーや、女子大学の学生相談室勤務などをしていました。多様な相談に対応するなかで、もっと専門性を磨きたいと思い、大学院で学んで臨床心理士と公認心理師の資格を取得しました。

キャリアを積み、資格を得て、この先何をやればよいのかと考えていたとき、コロナ禍で日本でも特に若い女性たちが苦しい状況にあることを知りました。何か彼女たちの役に立ちたいと思っていたところ、プランで「女の子のための居場所・相談」プロジェクトのパイロット事業が立ち上がると聞いて

応募を決意。現在に至っています。

孤独を抱えながらも、うまく言語化できず、家族や友人に相談できない女の子は大勢います。プランが運営する「わたカフェ」では、女の子たちが安心して話せる環境を提供し、社会福祉士・精神保健福祉士、臨床心理士、助産師などの専門知識を備えたスタッフが、ともに解決策を考えていきます。

まだまだ始まったばかりのプロジェクトですが、苦しい思いをしている女の子たちが一人でも多く、将来にむけた一歩を踏み出すお手伝いができたら嬉しいです。ご支援のほど、どうぞよろしくお願い致します。



今回紹介する人
国内支援事業グループ 橋本理恵 職員

ガールズ・プロジェクトのご支援をお願いします

- 生きづらさに寄り添う「女の子のための居場所・相談」プロジェクト(日本)



詳細はウェブサイトおよび同封のフライヤーをご覧ください

アドボカシー

「ガールズ・リーダーシップ・レポート2023」を発刊 女の子がリーダーになるための政策提言書

このレポートは、15~24歳の女の子および若年女性がリーダーとして活躍することを阻害する要因について、政治・経済・地域社会の3つの視点から課題を整理し、提言にまとめたものです。

15~24歳は、進学や進路、パートナーとの出会いや結婚、出産など、ライフステージの変化を経験する時期です。レポートでは、女の子が政治や経済、地域社会で活躍することを躊躇する背景に、年

齢が上がるにつれて内面化されていく女の子自身のジェンダー・ステレオタイプがあることに言及しています。固定化されたジェンダー・ステレオタイプは、女の子への期待の低さや、進路選択の制約につながり、彼女たちの将来にも影響します。

女の子のリーダーシップを育むためには、社会規範やジェンダー規範の見直し、学校や職場における環境整備など、多くのステーク

ホルダーの理解と協力が不可欠です。レポートでは、保護者や家族、学校、政府および自治体などへの提言をまとめています。

アドボカシーグループは、この年齢期の女の子が、「おかしい」と思ったことに声をあげ、リーダーシップを発揮できる社会の実現を目指して、引き続き活動していきます。

橋本職員のある一日

<p>早朝 -11:00</p> <p>出勤前にお弁当作りや家事、犬の散歩など。帰宅後ゆっくりできるような夕食の仕込みも</p> 	<p>11:00 - 12:00</p> <p>軽く食事をしてから、勤務先の「わたカフェ」へ</p> 	<p>12:00 - 13:00</p> <p>勤務開始。室内の清掃のほか、メール確認、ミーティングなど。行政などの関係機関へ訪問することもあります</p>	
<p>13:00</p> <p>利用者の受付開始。入室時には、「わたカフェ」での過ごし方についてアンケートを書いていただきます。個別相談がある場合、「こころ」関連は心理士、「生活」関連はソーシャルワーカー、「からだ」関連は助産師が対応します</p> 	<p>13:00 - 19:00</p> <p>「わたカフェ」には本やお菓子、ドリンクなども用意(左)。またハーバリウム作りなどのワークショップ(右)や、助産師講座なども行っています</p> 		
 <p>利用者から希望があったときは、個室でカウンセリングを行います</p>	<p>19:00</p> <p>「わたカフェ」閉室。掃除をして帰宅します</p>	<p>20:00 - 22:00</p> <p>帰宅後はすぐに夕食。そして犬の散歩や家事をこなします</p>	<p>22:00 - 就寝</p> <p>やっとリラックスタイム。海外ドラマを見たりして過ごします</p>

プラン・ユースグループの活動をInstagramで発信しています

プラン・ユースグループには、15～24歳の高校生から社会人のユースメンバーが所属し、アドボカシーとアドバイザリーに分かれて活動しています。若者に身近なジェンダー課題について調査・提言を行うアドボカシー活動に取り組んでいるメンバーたちは、2023年1月に、緊急避妊薬のスイッチOTC化（薬局で購入すること）にむけて、市民の声を政策に反映させるよう厚生労働省に申し入れを行いました。また、調査活動として、ルッキズム（外見を理由にした差別）に関する若者対象のアンケートをまとめて、本年度中の公開を目指しています。ほかにも、イベントの実施や、SNSでの発信・啓発活動にも力を入れています。最新情報はInstagramで発信していますので、ぜひフォローしてください。

別)に関する若者対象のアンケートをまとめて、本年度中の公開を目指しています。ほかにも、イベントの実施や、SNSでの発信・啓発活動にも力を入れています。最新情報はInstagramで発信していますので、ぜひフォローしてください。

プラン・ユースグループのInstagramはこちら



「ジェンダーに基づく暴力に反対する16日間キャンペーン」で作成した横断幕

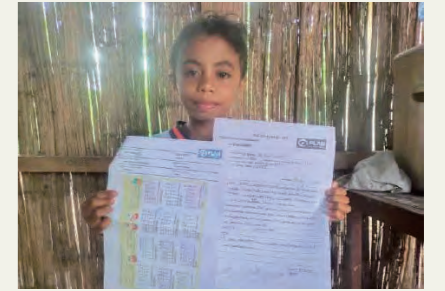
プラン・スポンサーシップをご支援くださっている皆さまへ カレンダーのお申し込みありがとうございました！

1月19日～2月28日に実施した、チャイルドに「2023年4月始まりカレンダー」を送る企画には、3,200通を超えるたくさんのお申し込みをいただき、誠にありがとうございました。

お申し込みいただいたカレンダーは現地事務所に印刷され、チャイルドに渡されます。楽しい学校行事の説明をつけたカレンダーは、チャイルドにもきっと興味を持ってもらえることでしょう。こ

れまで手紙送信フォームをお使いいただいていた方から「思ったより簡単に使えたので、これからもオンラインで手紙を書いてみます」といううれしいお声をいただきました。

2022年以降、ギフトの受付は中止しておりますが、今後も支援者の皆さまとチャイルドに喜んでいただける企画を検討してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



カレンダーを受け取り、うれしそうなチャイルド

プラン支援者の会から イベント開催のお知らせ

ウェブサイト | フェイスブック
上記アイコンのある会については、以下のプラン・インターナショナルウェブサイトから、各会のページにリンクできます
<https://www.plan-international.jp/supporter/plankai>

※新型コロナウイルスの感染状況によっては予告なく中止となる場合があります。

プラン千葉 W

春の例会

- 日時：4月16日(日) 13時15分～16時半
- 会場：千葉市民会館 会議室 千葉市中央区要町1-1
- 内容：チャイルドへの手紙書き ほか
- 参加費：500円
- 定員：先着15名
- 申込締切：4月14日(金)
- 連絡先：前田

Mail: e_maeda@yellow.plala.or.jp

多摩SP会 f

映画観賞会

- 日時：4月22日(土) 14時～16時
- 会場：立川市子ども未来センター 201会議室 立川市錦町3-2-26
- 内容：映画「風をつかまえた少年」を観賞後、感想をシェアして意見交換をいたします。
- 参加費：500円
- 連絡先：矢島

Mail: tama-web3@ngo-npo.org

あなたも参加しませんか？

プラン浦和の会

国際友好フェア参加

- 日時：5月3日(水・祝) 9時～16時、4日(木・祝) 9時～15時
- 会場：市民の森・見沼グリーンセンター JR宇都宮線 土呂駅下車徒歩10分
- 内容：国際友好フェア(主催：公益社団法人さいたま観光国際協会ほか)は、世界の料理や手工芸品を紹介するテントが並び、ステージでは各国の踊りや歌が披露されるなど、とても賑やかで楽しいお祭りです。プラン浦和の会ではプランのチラシを配って広報活動を行います。

- 参加費：無料 ※事前申込不要

- 連絡先：酒井

Mail: freedom11252000@hotmail.com

プラン名古屋の会 W f

愛知サマーセミナーでの講座開催

- 日時：7月15日(土)、16日(日)、17日(月・祝)のいずれか。時間未定。
- 会場：名古屋市内の私立大学か高等学校(未定)
- 内容：愛知サマーセミナー(主催：愛知県私立学校教職員組合連合ほか)で講座開催を予定しています。詳細はプラン名古屋の会のホームページやFacebookでお知らせの予定です。

- 参加費：無料

- 連絡先：久世

Mail: plan.nagoya.party@gmail.com

電話：080-6952-3170

- 支援者の会に関するお問い合わせ先：プラン・インターナショナル支援者の会担当

Mail: P-kai@plan-international.jp

※「プラン・ニュース」No.123は、2023年7月上旬にお届け予定です。

東京マラソン2023でプランの チャリティランナーが走りました！

東京マラソン2023が3月5日に開催されました。国内外からプランのチャリティランナー216名(海外からの参加は4年ぶり)が、「Run for Girls!」の思いを胸に、春めく東京の街を駆け抜けました。また、今年再開した沿道応援ではプランの支援者の方々やスタッフらが熱い声援を送り、久しぶりにお祭り

ムードの盛り上がる大会となりました。ランナーの皆さま、そして遠くから応援の気持ちをお送りくださった皆さま、本当にありがとうございました。

プランは引き続き、東京マラソン2024チャリティにも参加します。よろしく願いいたします。



プラン・インターナショナルは東京マラソン2023チャリティ事業の寄付先団体です

東京マラソン2023チャリティ公式ウェブサイト

<https://www.marathon.tokyo/charity/>



チャリティランナーの内倉光伸さん。ずっとコロナ禍で走れなかった思いをこめて、さわやかな笑顔で女の子のために走っていただきました。(撮影：金井塚太郎)

プラン・インターナショナルの LINE公式アカウントを開設

2023年1月より、プラン・インターナショナルのLINE公式アカウントを開設いたしました。これまでFacebook、Twitter、Instagramなど、各公式SNSでさまざまな内容を発信してきましたが、より多くの方々にプランのことを知っていただきたく、LINE公式アカウントでも日々の活動についての投稿や、

イベントの告知などを行っていく予定です。以下のQRコードより、ぜひ友だちになってみてください。

プランのLINE公式アカウントはこちら



プランへの寄付となる 商品・サービスのご紹介

ブックオフの宅配買取 サービスを活用した ご寄付

「キモチと。」は読み終わった本や使わなくなったモノの買取金額で、誰かを応援・社会貢献に手軽に参加できる、ブックオフの宅配買取サービスを活用した取り組みです。

応援先としてプランを選択し、ご自宅不要になった本・CD・DVD・ゲームなどをお送りいただくと、査定額がプランに寄付され、途上国の子どもたちのための活動資金になります。

詳細はブックオフのウェブサイトをご覧ください

<https://www.bookoffonline.co.jp/files/sellfund/>





「#私とプランの物語」

2023年5月に日本のプラン・インターナショナル創立40周年を迎えるにあたり、ご支援者の方に支援への思いをお寄せいただいています。「#プラン40周年」「#私とプランの物語」のハッシュタグをつけて、Twitterで発信しませんか？お寄せいただいたストーリーは、40周年記念サイトやプラン・ニュースに掲載させていただきます。このキャンペーンは9月末頃まで実施予定です。詳細は、右上のQRコードから40周年記念サイトをご確認ください。

世界の子どもたちについて思うこと



たといいま悲惨な状態にあっても、学ぶことによって自分自身を助けられるようになってほしい。それをプラン・インターナショナルを通して援助したい。

戦争によって難民になる子どもたちもいたり、地域によって大人の都合で苦勞していたりするのだと感じます。

子どもにとっては昔も今も大変なのだと思います。でも一歩ずつ前進して夢の実現に向かって努力してほしいと思います。

プランへの支援を始めたきっかけ



母が昔、フォスター・プランで支援していました。私には息子しかいないので、遠い地に娘がいたらと思い、始めました。

子どもたちが高校に入り、何とか歩みだしたとき「しあわせのおすそわけ」をしようと思って始めました。

格差社会は間違っている、と考えていた頃、プランの日本支部が設立されたことをNHKで知りました。「これだ」と思い、早速電話をして参加しました。

プランを支援してみてよかったこと



小さな支援ではありますが、誰かに気持ちを寄せられるからというれること。

知らない国、文化を知ることができた。支援をしているというより、自分の楽しみのひとつに感じている。

手紙や報告をもらうたびに、新しい世界がひろがりました。これは寄付ではなくて授業料だと思いました。それは今に続いています。

プランのSNSをフォローしてください

各国でのプランの活動や子どもたちの様子、事務局の日々のあれこれを発信中！



※「国際NGOプラン・インターナショナル」で検索してください。



表紙写真ストーリー

今回の表紙は、輝く瞳と笑顔が印象的なインドネシアのアユさんです。プランが実施した作文ワークショップに参加したときの1枚です。このワークショップは、児童文学作家のイメルダ・ナオミ氏の協力を得て実現しました。子どもたちが書くことを好きになること、そしてスポンサーとのコミュニケーションの促進につなげることも目的としています。アユさんは、自分の考えを文章で表現することに自信がもてるようになったといいます。

ご意見、ご感想をお寄せください



プラン・ニュース122号 アンケート